

中村欣一郎市長の

山椒は小粒でも…

Vol.31

鳥羽セールの三種の神器



A「中村市長の胸元のそれいいね」

私「えっ、この真珠ですか？」

A「男性が着けると、またオシヤレだね」

私「鳥羽は真珠養殖発祥の地なんです」

A「あの御木本幸吉さん？」

私「そうです、ふるさと納税の返礼品にもありますよ」

A「もうひとつの白いピンバッジは何ですか？」

私「あつ、これは海女さんです。昨年、日本遺産にも認定されました」

A「海女さんって、あの海に潜って漁をする人？」

私「そうです。鳥羽には400人を超える海女さんがいて、その数は日本で一番多

いんです」

胸元のピンがきつかけで初対面の人とも話はずみです。さりげない話の流れで地元のPRができるのも幸せなことです。

そして最近新しいアイテムがひとつ加わりました。それは海藻の名刺です。手渡した瞬間から、目を白黒させる人、これは何かと明かりにかざす人、「かわいいー」と声を上げる女性、「何ですかコレ？」と問う人…

私「鳥羽は今、海藻を売り出し中です。伊勢湾という内海と太平洋という外海の間があるので海藻が豊富です」

B「ワカメとかヒジキとかトコロテンとか…」

私「食べられるものを指折り数えても両手では足りないですね。食はもちろん、健康にも美容にも、そして海の健康という意味で環境にも大きな役割を果たしています」

B「ふーん」

私「そうそう、名刺の紫色の海藻はスサビノリといって黒ノリと言われるものです。鳥羽のノリはちがいますよ。今まで食べてたのはなんだっただ、って思いますよ」

先日お会いした、ある島の町長さんとはこんな会話をしました。

C「この緑色のミルって海藻は歯周病に効くって言うので、養殖にチャレンジしたけどうまくいかなかったよ。その際、鳥羽市の水産研究所にも相談したよ」

私「へえー、以前そんなつながりがあったんですか」

最強の神器のおかげで、初対面の人に逢うのが楽しい毎日です。



ちなみに3月24日(火)には第2回の海藻文化祭を開催します。どなたでもご参加いただけます。場所は海の博物館、くわしくは6・7ページで確認してください。



Vol.190

教育委員会生涯学習課

☎ 1268

災害と人権 2

「これからわたしたちは」

東日本大震災から9年が過ぎようとしています。

平成29年度に内閣府が行った世論調査で、東日本大震災やそれに伴う福島第一原子力発電所の事故の発生により、「学校、幼稚園などで嫌がらせやいじめを受けること」「差別的な言動をされること」「職場で嫌がらせやいじめを受けること」「学校や幼稚園などへの入学や入園を拒否されること」などの人権侵害が、高い割合で存在していることが明らかにになりました。

特に教育現場では、避難者に対するいじめが大きな問題となり、平成29年4月に、文部科学大臣から「保護者・地域住民の皆様へ」というメッセージが発表されました。それには、

被災児童・生徒へのいじめの背景の一つには、避難されている人々への誤解や被災地の状況や放射線に関する理解不足からくる大人の配慮に欠ける言動があるとした上で、次の2つが必要であると述べられています。

まず、大人が被災された人々、故郷を離れて生活をされている人々の思いを理解すること

科学的に思考し、情報を正しく理解すること

誤った思い込みや根拠のない噂、風評によって偏見や誤解が生まれ、それが新たな差別をつくりだしています。これは、日本に現存する同和問題、障がい者差別の問題、外国人差別の問題、女性・性的マイノリティーに対する差別の問題などの構造そのものです。

東日本大震災を通じてみえてきた問題や課題について、今一度身近なことを振り返り、みつめてみましょう。

まずは、「正しく知ること」「気付くこと」が問題解決の第一歩となります。それを次のステップに活かすことが、自分たちのまちをより住みよいまちへと変えていくことにつながるのではないのでしょうか。